

4 精密検査依頼書兼結果報告書【乳がん検診】 説明書

※当報告書が区市町村に返送された際になどに御利用ください。

※「地域保健・健康増進事業報告」:「健増報告」と表記します。

※「乳がん検診精密検査結果報告書(東京都統一様式)」と「地域保健・健康増進事業報告集計表」との対照表:「対照表」と表記します。

① ○○○○○控

○/○

●●●●●区乳がん検診 精密検査依頼書 兼 結果報告書

乳がん精密検査依頼書

医療機関長様
御担当医様

◆区市町村名を記入してください。

年月日
返送先
★返送先2か所以上
住所の場合、追記可です。
TEL

下記の方は●●●●●区乳がん検診の結果、要精密検査となりましたので、御高診の上、宜しく御指導をお願い申し上げます。

氏名	年月日	検診日	年月日
生年月日	年月日	検診機関名	
個人識別情報	★住所・住民番号等の記入欄として使用できます。		

◆記入内容にあわせて項目名を変更してください。

精密検査結果(貴院記入用)

精密検査結果について御記入の上、御返送くださいますようお願いいたします。
※精密検査結果の区市町村及び区市町村から委託を受けた検診機関への提供は、個人情報保護法の例外事項として認められています。
※御記入いただいた内容は、区市町村が「地域保健・健康増進事業報告」(厚生労働省)に計上し、国及び都の地域保健施策のための基礎資料となります。

◆各自治体名に変更可です。

精密検査	<input type="checkbox"/> 乳房エックス線検査(マンモグラフィ) <input type="checkbox"/> 乳房超音波検査 <input type="checkbox"/> 細胞診 (<input type="checkbox"/> 穿刺吸引細胞診 <input type="checkbox"/> 乳頭分泌液細胞診) <input type="checkbox"/> 組織診 (<input type="checkbox"/> 針生検 <input type="checkbox"/> 吸引式組織生検 <input type="checkbox"/> 外科的生検) <input type="checkbox"/> 上記以外(検査法:)	
診断区分	<input type="checkbox"/> ① 異常なし・乳房以外の臓器の疾患 <input type="checkbox"/> ② 乳がん (<input type="checkbox"/> 0期がん <input type="checkbox"/> I期がん <input type="checkbox"/> II期以上のがん <input type="checkbox"/> 病期不明) <input type="checkbox"/> ③ 乳がんの疑いのある者又は未確定 <input type="checkbox"/> ④ 乳がん以外の乳房の疾患 (乳腺症、線維腺腫、嚢胞、葉状腫瘍、転移性の乳がん等)	
精密検査時の偶発症	<input type="checkbox"/> ⑤ 該当する場合のみ (<input type="checkbox"/> あり ⇒ 内容()) ※入院治療を要するものとする(例:穿刺吸引細胞診や針生検による感染症、大量出血等)。	
精密検査実施日	精密検査実施医療機関名	精密検査担当医師名
年月日	年月日	年月日

◆乳がん検診における精密検査方法

- ・東京都乳がん検診の精度管理のための技術的指針(令和元年5月)のP25「乳がん検診チェックリスト(検診実施機関用)」のうち「1 受診者への説明」の(1-b)では、精密検査方法として、「マンモグラフィの追加撮影や超音波検査、穿刺吸引細胞診や針生検等」を精密検査方法としています。
- ・国立がん研究センター「がん情報サービス」(https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/breast.html1)では、乳がん検診の精密検査について「乳がん検診における一般的な精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。」とされています。
- ・「マンモグラフィによる乳がん検診の手引-精度管理マニュアル-(第7版)」では、細胞診の種類として乳頭分泌液細胞診及び穿刺吸引細胞診の2種類が、組織診の種類として針生検、吸引式組織生検及び外科的生検の3種類が示されています。
- ・健増報告作成要領(令和2年度分)には、乳がん検診の精密検査として不適切な方法の記載はありません。
- ・そのため、「☑上記以外」のみに記入があった場合を含め、いずれかにチェックがあれば、「精密検査受診」として取り扱うことになります。

○健増報告項目:「異常認めず」(対照表項目①)
健増報告での「異常認めず」には、乳房に異常が認められなかった場合に加えて「乳房には病変がない悪性腫瘍」も含まれます。

○健増報告項目:「乳がんであった者」(転移性を含まない)(対照表項目②)
「乳がんのうち早期がん」(対照表項目③+④)
⇒③(□0期がん)及び④(□I期がん)にチェックがある者の数を計上してください。(「早期がん」=「0期がん」+「I期がん」)
「乳がんのうち非浸潤がん」(対照表項目④)
⇒③(□0期がん)にチェックがある者の数を計上してください。

○健増報告項目:「乳がん以外の疾患であった者(転移性の乳がんを含む)」(対照表項目⑥)
乳がん以外の乳房の疾患として、乳腺症、線維腺腫、嚢胞、葉状腫瘍等が該当します。

乳がんの病期

0期	非浸潤がん。あるいはバジレット病で、きわめて早期のがん
I期	がんの大きさが2cm以下で、リンパ管や他の臓器に転移していない
IIA期	がんの大きさが2cm以下で、わきの下のリンパ管に転移し、そのリンパ管は固定されておらず動く、もしくは、がんが2cmを超え5cm以下の大きさをリンパ管や他の臓器への転移はない
IIB期	がんが2cmを超え5cm以下の大きさを、わきの下のリンパ管に転移し、そのリンパ管は固定されておらず動く、もしくは、がんが5cmの大きさを超え、リンパ管や他の臓器への転移はない
IIIA期	がんの大きさが5cm以下で、わきの下のリンパ管に転移し、そのリンパ管は固定されないか、リンパ管が互いに推し合っている、または、わきの下のリンパ管には転移はないが肋骨の内側のリンパ管に転移がある
IIIB期	がんの大きさやリンパ管への転移の有無に関わらず、しこりが胸壁に固定されていたり、がんが皮膚に出たり皮膚が潰れたり皮膚がむくんでいるような状態しこりがない炎症性乳がんもこの病期に含まれる
IIIC期	がんの大きさに関わらず、わきの下のリンパ管と胸骨の内側のリンパ管の両方に転移がある、または肋骨の上下にあるリンパ管に転移がある
IV期	他の離れた臓器への転移(骨、葉、肝臓、脳などの遠隔転移:えんかくてんり)がある

※非浸潤がん:がん細胞が乳管や乳管小葉の中にとどまっている乳がん。
※バジレット病:乳頭や乳輪の表皮内にがん細胞が侵入し、乳管や乳輪が赤く、炎症のような状態となるもの。
引用:国立がん研究センター「がん情報サービス」
<https://ganjoho.jp/public/cancer/breast/treatment.html>